

学校の出席扱いに…長崎・雲仙市のフリースクール 「心を元気に自分らしく過ごして」



西日本新聞 



うみの丘スクールでジグソーパズルを楽しむ子どもたち

夏休み明けは勉強や人間関係に悩み、学校から足が遠のく子どもが増える時期。長崎県雲仙市小浜町北野のフリースクール「うみの丘スクール」は小中高生9人が利用し、各自が思い思いに過ごしている。責任者の津田奈美さん（55）は「学校に行くのがつらいのなら、ここに来て人としゃべり、触れ合ってほしい」と呼びかける。

【画像】不登校要因調査の主な回答 子どもと学校の認識にギャップも

津田さんは、福祉サービスを手がける「おばまの森」（雲仙市小浜町）で発達障害などの小中高生を対象とした放課後等デイサービス事業に携わる中で、不登校の児童・生徒の居場所をつくる大切さを痛感したという。同社の森久之社長（51）と話し合い、2022年4月にうみの丘スクールを開設した。

さまざまな理由で学校に通えない十数人の小中高生がこれまでに学び、遊んで進学、就職していった。スクールを訪れる子どもたちについて、津田さんは「ある日突然、電池が切れたみたいに気力が無くなり、学校に行けなくなる子がいる。本人にも分からないケースが多い」と説明する。

現在の利用者は雲仙市、南島原市の9人。うち小中学生6人は、在籍する学校で出席扱いになっている。「このスクールの特徴は、学校と連携しているところ。担任の先生とも連絡を取り合い、子どもたちの様子を毎月報告している」という。

利用者は動画投稿サイトのユーチューブを見て勉強したり、近くの畑で野菜を栽培、収穫したりして過ごす。週に1度、別室登校したり、教室に戻ったりする子もいるという。

津田さんは「学校に行くのは長い人生のちょっとした期間。悩まず、心を元気に自分らしく過ごしてほしい」と話す。

うみの丘スクールの利用時間は平日午前9時～午後3時。料金は1日千円。随時、施設の見学を受け付けている。おばまの森本部事務局＝0957（75）0888。

（本山友彦）